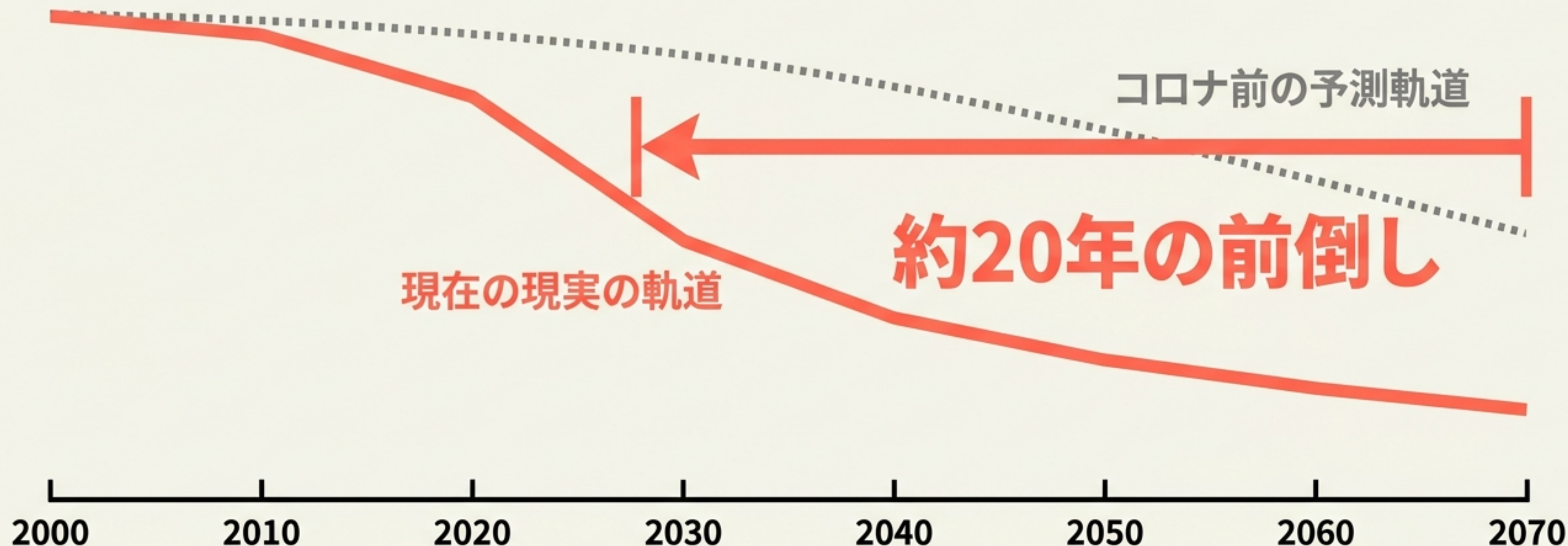


『地域と人口減少の経済学』 超徹底解説

「スマート・シュリンク」が導く
日本の未来と課題解決の新常識

拡大志向を捨て、賢く縮む。データとロジックで読み解く、
しなやかな社会の再設計図。

危機は「未来」ではなく、「現在」である



コロナ禍により、日本の人口減少スピードは当初の予測より約20年分も前倒しされた。
「国や自治体がいつか何とかしてくれる」という楽観的な未来予想図は、すでに完全に崩壊している。

■ 真の危機は、減少数ではなく「人口オーナス（重荷）」

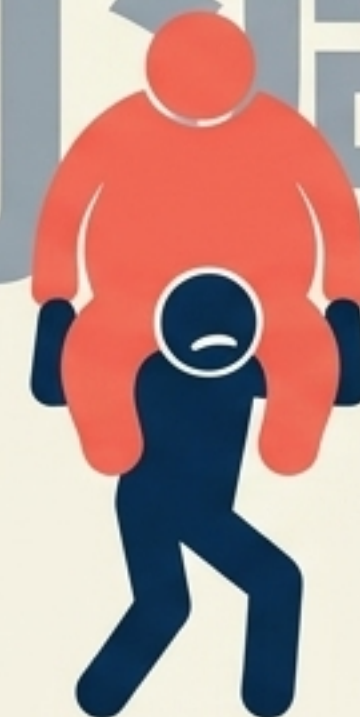
労働力4割減



1980年代
(人口ボーナス期)



2020年
(騎馬戦社会)
1.5人 → 1人



2070年
(1対1の肩車社会)
1.1人 → 1人

人口が減ること自体よりも、年齢構造の歪みによって現役世代の負担が激増し、
経済が抑圧される「人口オーナス」こそが日本最大の問題である。

人口オーナスが引き起こす「4つの致命的課題」



圧倒的な 人手不足

企業生産力の維持不能
と成長制約



国内貯蓄率 の低下

投資資金の減少と
財政再建の難航



社会保障の 崩壊危機

現役世代が支える
「賦課方式」の限界

地域の2つの 悪循環

過疎化加速と
公共サービスの非効率化



日々報じられる経済ニュースの根本原因は、すべてこの4つの構造的圧迫に集約される

2040年、日本を覆う「絶望的ミスマッチ」

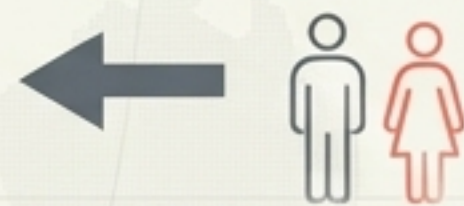
【大都市圏】介護施設の絶望的不足



【地方部】コミュニティ崩壊と施設の余剰



過剰施設



危機は全国一律ではない。都市部では「介護破綻」が起きる一方で、地方では「施設が余りコミュニティが消滅」する。真逆の悲劇が同時に進行するのだ。

幻想 / 感情論



2040年に多くの自治体が
「消滅」する



地方創生で「人口1億人」
を死守すべき

現実 / データ

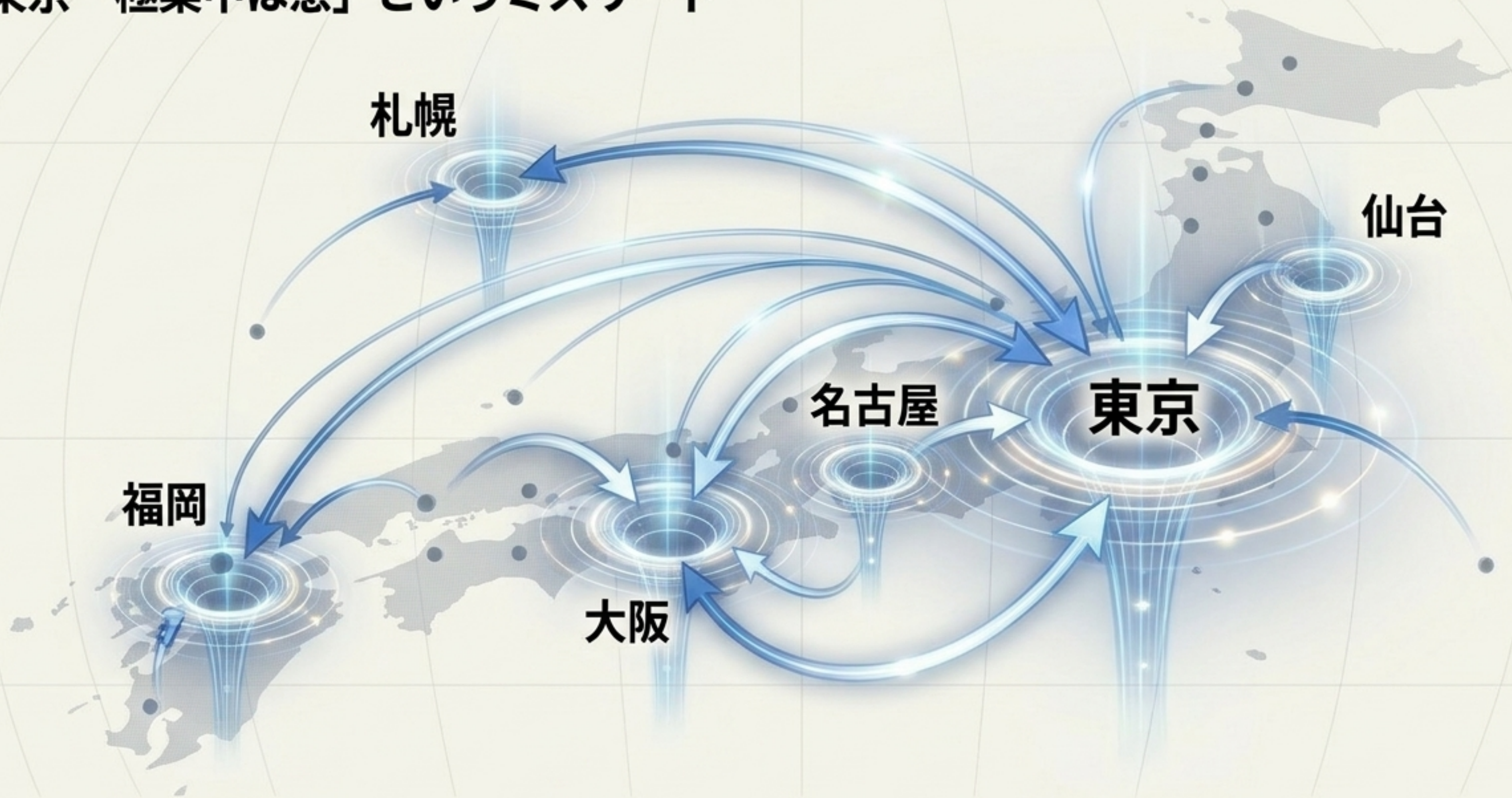


自治体が完全に消えるのは
100年以上先。過度な恐怖が、
真の危機（都市部の高齢化）か
ら目を背けさせた。



希望出生率(1.6)でも達成不可能
な精神論^①。社会の維持ではな
く、個人の豊かさ（ウェルビー
イングこそが目的である。

「東京一極集中は悪」というミスリード



現実には起きているのは「多層的な都市への集中」である。居住地の選択は個人の自由（ウェルビーイングの追求）であり、国の政策で無理やり人の流れを変えられるという「非現実的な楽観主義」は捨てるべきだ。

メディアが絶賛する「劇場型」を真似てはいけない

	劇場型（特定地域成功モデル）	共有型（汎用・公共財モデル）
【概要】	独創的アイデアとカリスマ首長に依存	行政効率と住民満足度の地道な向上
【再現性】	極めて低い（99%失敗する）	極めて高い（どの自治体でも可能）
【他地域との関係】	観光客や企業の奪い合い（ゼロサム）	真似されても損しない（公共財）
【具体例】	成功した特定の観光地化など	ナッジ、施設のカルテ化、未来視点

カリスマに依存する政策は他の自治体では再現できない。私たちが選ぶべきは、地味だが確実に成果が出る「共有型」の地域政策である。

最強の共有型ツール「ナッジ（行動経済学）」



同調バイアス

督促状に「90%が納付済みです」と記載。



デフォルト設定の変更

がん検診を「仮予約済み」として通知。



ゲーミフィケーション

ゴミ箱を「人気投票箱」にしてポイ捨て防止。

人間の心理バイアスを利用し、自発的な行動を促す。「予算ゼロ」「誰でも発案可能」「効果測定が容易」という、人口減少社会における必須の知恵。

究極の適応戦略「スマート・シュリンク（賢く縮む）」



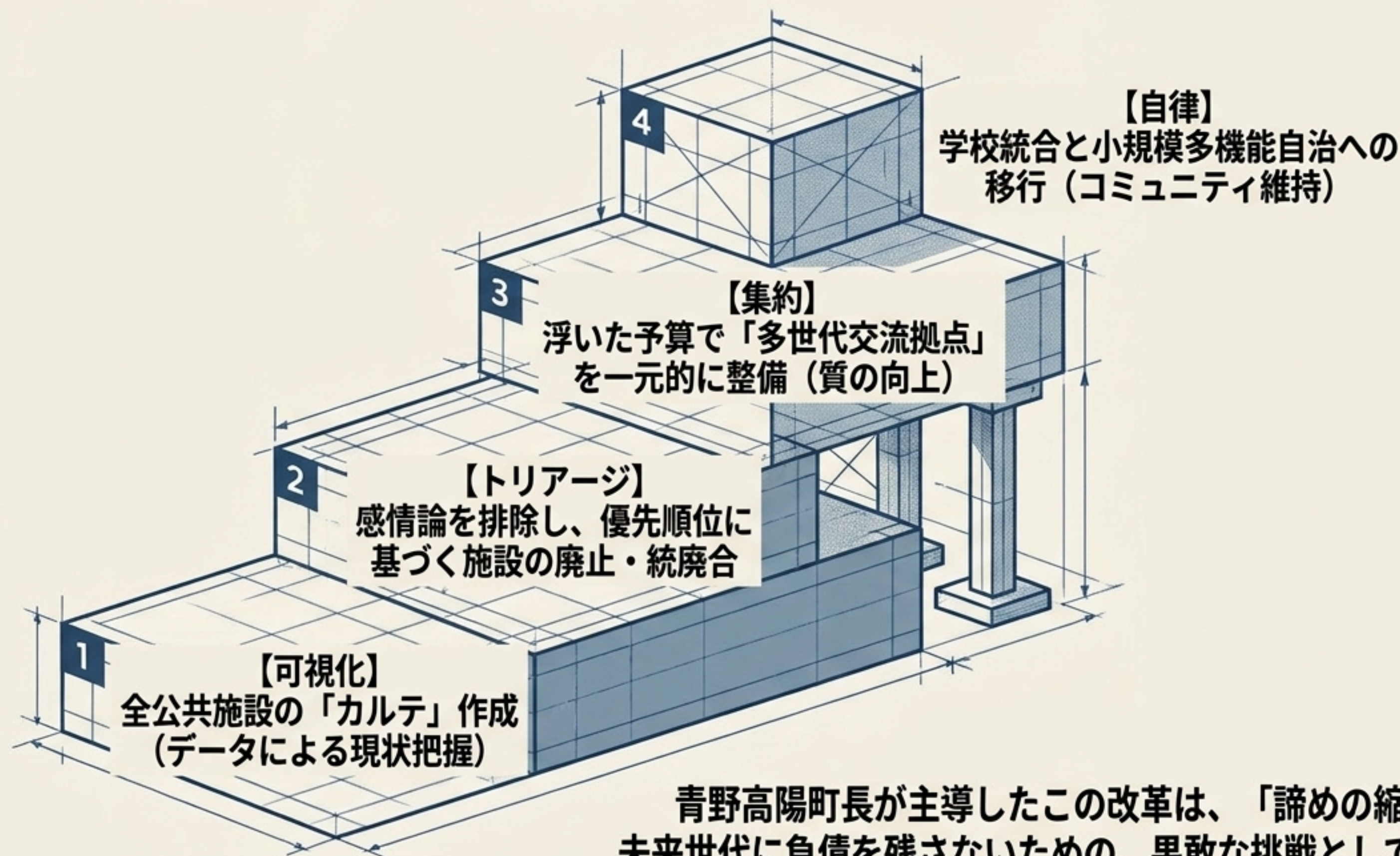
緩和型政策 / 拡大志向



調和型政策 / スマート・シュリンク

「拡大志向」をきっぱりと捨てる。人口減少を避けられない前提として受け入れ、街の規模を賢く縮小・再編し、住民のウェルビーイング（豊かさ）を最大化する発想の転換。

実践プレイブック：岡山県美咲町の「縮む挑戦」



次世代を生き抜くための4つのキーワード



フューチャー・デザイン

50年後の「仮想の未来世代」になりきって意思決定を行い、目先の利益への偏りを防ぐ手法。



マーケットデザイン

ゲーム理論を用い、保育園や医療現場など「価格のない市場」でのミスマッチを防ぐアルゴリズム設計。



自発的移動とコンパクト化

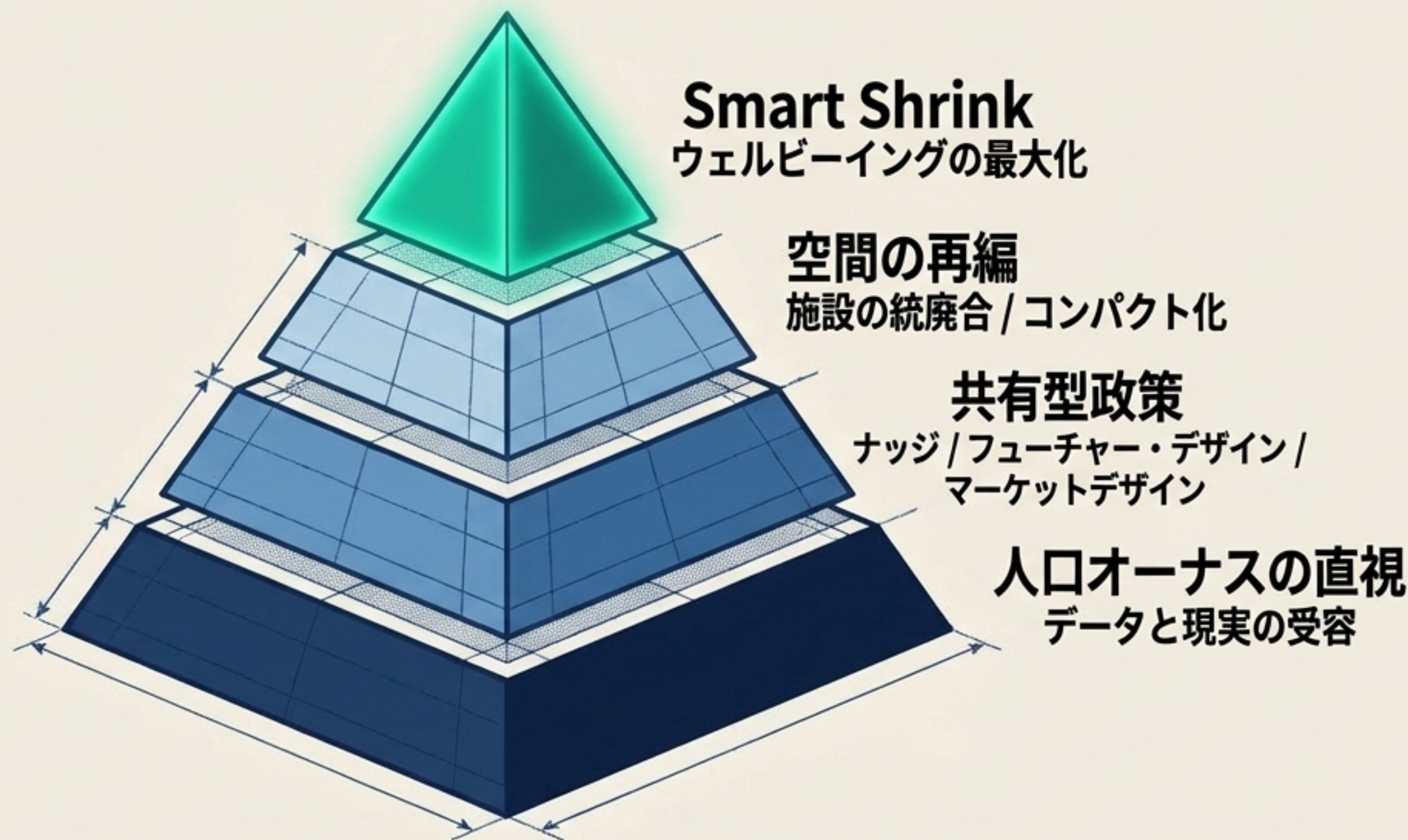
行政が強制するのではなく、集積の利益を保つために住民が自発的に中心部へ再集結するプロセス。



日本的制度慣行の打破

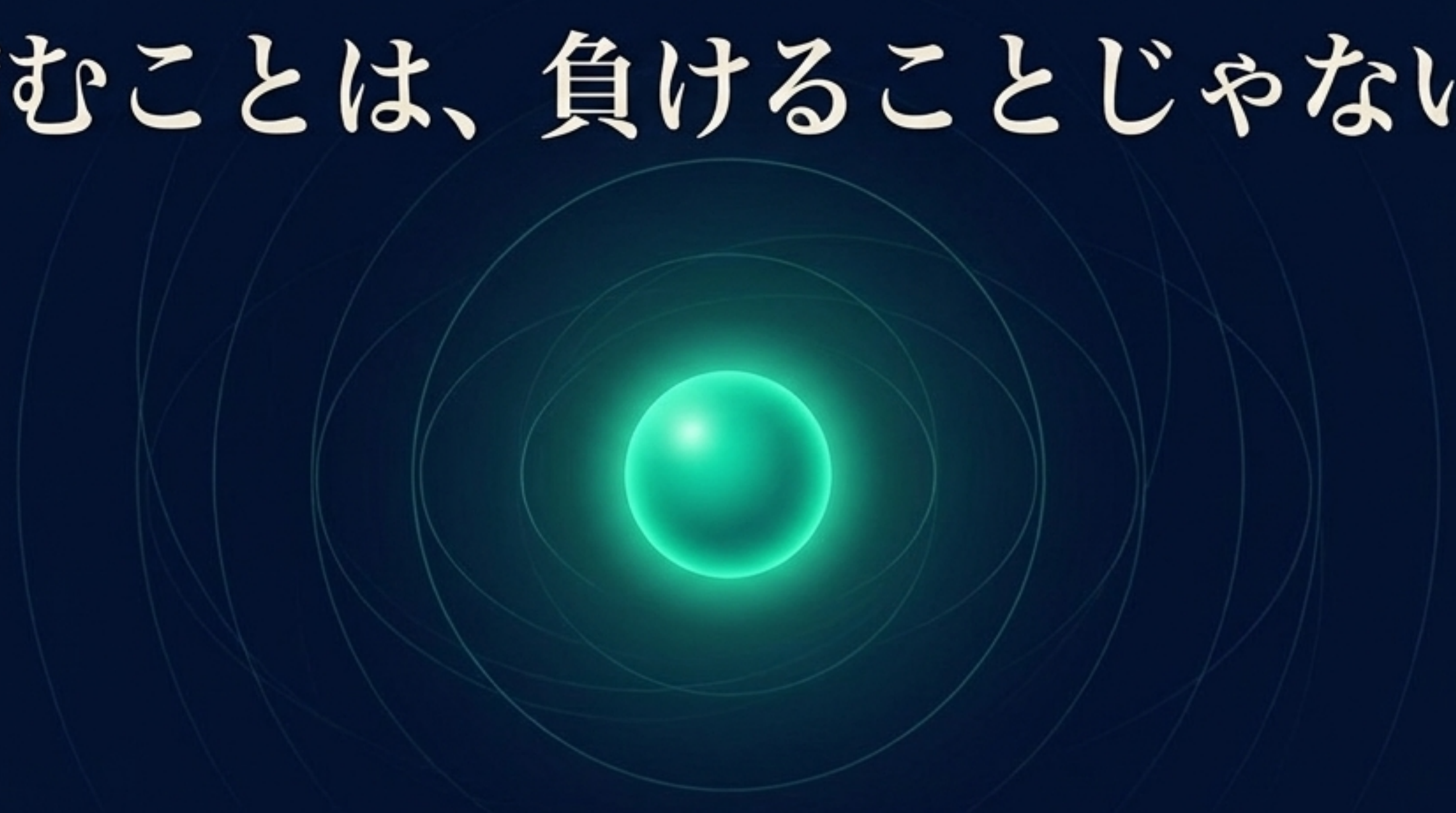
移動の自由を奪う「持ち家主義」「終身雇用」、女性流出を招く「ジェンダーバイアス」の徹底排除。

しなやかな社会の設計図（統合エコシステム）



全ての手法は連動している。人口減少に抗うのではなく、これらの知見を組み合わせ、「人口が減っても豊かに暮らせるエコシステム」をデザインすることが急務である。

縮むことは、負けることじゃない。



「日本は終わった」と嘆く時間はもう終わりだ。
スマート・シュリンクとは、冷酷な現実逃避ではなく、究極の愛と理性に満ちた処方箋である。
会社でも、キャリアでも、地域でも同じ。
賢く手放し、本当に大切な本質に集中する。
賢く変化することこそが、私たちの真の強さになる。

原著：小峰 隆夫『地域と人口減少の経済学
スマート・シュリンクという選択肢』
(中央公論新社)

出典・解説：PHOENIX愛知オンライン教室
公式ブログ



この「正しい知識の武器」を持って、あなたのビジネスや地域の議論を今日から変えていきましょう。ぜひ、このスライドをご自身のチームやコミュニティでシェアしてください。